

7 幼児教育の充実、家庭教育支援の充実

(1) プログラム開発の背景

国では、都市化や核家族化、少子化などによる人間関係の希薄化を背景として、子育て中の親の孤立、不安が大きくなっていることを受けて、地域や社会全体で子どもたちを見守り、育てる取組が重要であるとの認識を示している。

本道においても、とりわけ幼児期は生涯にわたる人間形成の基礎として重要な時期であることから、子育て中の保護者が居住地域の中で気軽に子育てについて相談したり、学んだりすることができる体制づくりを進めていくこととしている。

のことから、道立青少年体験活動支援施設においても、親子で同じ体験を共有したり保護者同士で子育ての経験を話したりする機会を提供し、体験を通して親子間や家族間の交流を深めることができるプログラムの更なる普及を図っていく。

(2) 道及び道教委の主な関連施策

・北海道教育推進計画 施策項目18 幼児教育の充実

近年、幼児期に忍耐力や協調性といった非認知的能力を身に付けることが、その後の生活に大きな差を生むという研究成果など幼児教育の重要性への認識が高まっており、幼稚園、保育所、認定こども園等における幼児教育の質の向上を図ります。

・北海道教育推進計画 施策項目17 家庭教育支援の充実

「学校・家庭・地域が連携・協働し、保護者が子どもの望ましい生活習慣や学習習慣について学んだり、家庭教育に関する悩みを他の保護者と共有したりすることができる機会の提供を行います。」

・第3次北海道生涯学習推進基本構想 視点2—3 「地域とのつながりの中での家庭教育の推進」

親の育ちを応援する取組を推進し、家庭教育・子育て支援のネットワークづくりを行います

(3) 各施設における事業名と主なアクティビティ等

北見	家族ふれあい広場
	令和3年12月25日（土） (日帰り) コーディネーション運動、折り紙、親子別プログラム（子育て交流会、折り紙遊び）など
足寄	ほっかいどうファミリーキャンプ In あしょろ
	令和3年7月31日（土）～8月1日（日） (1泊2日) テント設営、野外炊事など
厚岸	家族ふれあい広場
	令和3年11月23日（火・祝） (日帰り) 絵本交換会、絵本読み聞かせ、親子別プログラム（懇談会、遊びリンク）など

家族ふれあい広場

1 事業のねらい

幼児に多様な経験の機会を提供するとともに、親子が一緒に活動することにより、家族の絆や家族間の連携を深める。また、保護者が自身の子どもに対する新たな気づきを得たり、保護者間の交流を深めたりする機会を提供する。

2 事業の概要

- 期日 R3.12.25(土) 1日日程
- 対象 幼児(年中・年長の4~6歳)とその家族
- 人数 4家族 11名
- 場所 ネイパル北見
- 協力 澤田道伸氏(株式会社スコレ)
本間千里氏(日本折紙協会認定折紙講師)

3 プログラム

日時	10	11	12	13	14	15
12/25 (土)	受付 9:30~ 10:00	開会式 (保護者) 準備運動 (子)	親子で コーディネーション運動	昼食 (食堂)	親子で 折り紙	子育て交流会 「おしゃべりカフェ」 (保護者) 折り紙遊び 「折りんピック」 (子) 14:45

4 ねらいを達成するための活動の工夫

■家庭での育児に生かせる体験の設定

- ・コーディネーション運動の指導者を講師として、家庭でもできる運動を実際に体験することで、子どもの体幹トレーニングをしながら親子でのスキンシップにも繋がる方法を学べるようにした。また、折り紙の楽しさを体験する活動を通して、折り紙遊びのよさを再発見し、家庭でも取り組むきっかけづくりを提供了。

■保護者の交流による学び

- ・保護者対象の茶話会を開き、日頃の子育てに関する不安やコロナ禍における悩みなど、相互の経験談などを交流できるようにした。



家庭でもできる運動を体験



親子で折り紙遊び

5 事業の評価

■アンケート結果から

- ・「親子で一緒に活動することで、親子の交流を深めたり、家族(子ども)に対する新たな気づきや発見をしたりできたか。」の設問では100%ができたと回答した。また、「いろいろな体験をすることができたか。」の設問でも100%ができたと回答した。
- ・保護者への「参加者同士で交流することができたか。」の設問では100%ができたと回答した。

■参加者の声

- ・帰ってからすぐ遊べる簡単なもので、すぐ実践できると思った。
- ・家だとあまり運動させてあげられなかつたが、子どもが夢中になつていて良かった。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「親子の交流・家族に対する気づき」への評価が高いことから、親子で一緒に体験する活動を通して、親子の交流や気づきを深めることができた。
- 「参加者間の交流」の最高値の回答が半数に留まることから、参加者同士が一緒に活動できる時間の確保や内容を更に工夫する必要があったと考えられる。

企画のポイント

家庭で取り入れられる体験活動
と親同士の交流を図る場面の設定

ほつかいどうファミリーキャンプ in あしょろ

1 事業のねらい

幼少期の子どもをもつ様々な家庭環境の家族にテント泊や野外炊飯の調理などをとおして、家族団らんの機会を提供し、家庭教育を支援する。

2 事業の概要

- 期日 R3.7.31(土)～8.1(日) 1泊2日
- 対象 未就学児から小学校2年生までの児童とその同居家族
- 人数 7家族 27名
- 場所 ネイパル足寄

3 プログラム

	6:30	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
7/31 (土)							受付 12:00～	開会式	説明	テント設営		野外炊飯		入浴 自由交流		検温	就寝
8/1 (日)	起床 テント 干し	朝食	テント 撤収	振り 返り	閉会式	11:00 解散											

4 ねらいを達成するための活動の工夫

■家族内コミュニケーションが図られるプログラム

- ・子どもたちも調理に参加できる簡単なメニューにすることにより、親子でコミュニケーションをとりながら活動できるようにした。
- ・キャンプに慣れていない保護者も多いことから、スタッフがテント設営を実際にを行いながら手順を示し、子どもが取り組みやすい場所を強調して説明するなどして、親子で協力して取り組むことをイメージできるようにした。
- ・準備や片付けなどは余裕持ったプログラムにし、家族の団らんの時間を持つことができるようにした。

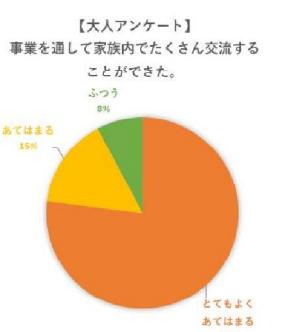


家族で協力して火おこし



親子で一緒にペグ打ちに挑戦

5 事業の評価



■アンケートから

- ・「家族交流がたくさんできた」では大人が92%、子どもが93%の肯定的な評価。

■参加者の声

- ・子どもが自主性を持って準備等に参加してくれて良い経験になりました。(保護者)
- ・心に残ったことはいろいろ手伝いをして、他の人の手伝いをしたらほめられたことです。(子ども)

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- アンケートで「家族の交流」について9割以上が肯定的な評価をしたことから、楽しみながら親子で協力できる活動を取り入れたことにより、交流が深まったものと考えられる。
- 保護者が、家庭教育への理解を深めるようにするために、情報提供や野外活動の教育的意義を伝える活動を事業内に取り入れる必要がある。



企画のポイント

家族が協力できる場面を意図的に組み入れ、ゆとりをもったプログラム設定を行う。

家族ふれあい広場

1 事業のねらい

絵本交換会や絵本の読み聞かせ、懇談会を通して、幼児期の子どもを持つ親子のふれあいと家族間交流の場を提供し、子育て世代のネットワークづくりを目的とする

2 事業の概要

- 期日 R3.11.23(火・祝) 日帰り
- 対象 未就学児とその家族
- 人数 9家族 22名
- 場所 ネイパル厚岸
- 協力 釧路短期大学専任講師 高木真美氏
読み聞かせサークル「ちいさな絵本箱」「うてうての会」

3 プログラム

	9	10	11	12	13	14	15	16
11/23 (火・祝)	9:30~ 受付	開会式	絵本 交換会	昼 食 自由交流	絵本 読み聞かせ	【保護者】 懇談会	閉会式	16:00 解散

4 ねらいを達成するための活動の工夫

■絵本を通した親子のふれあいの場の提供

- ・絵本交換会や絵本の読み聞かせをプログラムに導入し、家族で本に親しむなど家庭での読書活動の推進を図るとともに、親子の良好な関係作りにつながるよう工夫した。

■懇談会による家族間交流

- ・釧路短期大学専任講師の高木真美氏を講師に招き、幼児期における読書活動を通じた子育てについて懇談会を行い、意見交流による子育てについての不安解消や、家庭教育の在り方について考える機会となるよう工夫した。

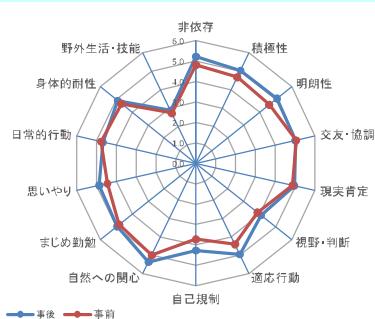


絵本交換会におけるつながりづくり



懇談会で保護者同士の交流

5 事業の評価



■IKR 調査による変化

- ・「適応行動」が 0.5P、「思いやり」が 0.4P 向上
- ・「交友・協調」は変化なし

■参加者の声

- ・交換した絵本を家で読んでもらいたい（子）
- ・普段関わる機会が少ない世代の親と交流することができてよかったです（保護者）

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- ルールを守って他の家族や子ども同士の交流を行ったことや、読み聞かせを通して主人公の気持ちを考えるなど様々な気付きが生まれたことが、「適応行動」や「思いやり」の向上につながったものと考えられる。
- 「交友・協調」に大きな変化が見られなかった。意図的に参加者が協力する場面を設定し、ネットワークづくりをより促進する必要があった。



企画のポイント

絵本を軸にした、親子のふれあいや家族間交流による子育て世代のネットワークづくり